

安全データシート ダイアジノンS Lゾル

1 製品名及び会社情報

製品名： ダイアジノンS Lゾル  
 会社名： 日本化薬株式会社  
 住所： 東京都千代田区丸の内二丁目1番1号  
 担当部門： アグロ事業部  
 電話番号： 03-6731-5325  
 FAX番号： 050-3730-8045  
 緊急連絡先 平日昼間 アグロ事業部(電話番号 03-6731-5325)  
 休日・夜間 鹿島工場(電話番号 0479-46-2753)  
 メールアドレス：[agro.info@nipponkayaku.co.jp](mailto:agro.info@nipponkayaku.co.jp)  
 用途及び使用上の制限：農薬(殺虫剤)

2 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入：粉塵、ミスト)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分外
	皮膚感作性	区分1 B
	変異原性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分外
	特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分外
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分1
	水生環境有害性(慢性)	区分1

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示：



注意喚起語： 警告  
 危険有害性情報： 吸入すると有害  
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
 水生生物に非常に強い毒性  
 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

安全データシート ダイアジノンS Lゾル

注意書き：

[安全対策]

ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。  
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
汚染された作業衣は作業所から出さないこと。  
保護手袋を着用すること。  
必要な時以外は環境への放出は避けること。

[応急措置]

吸入した場合：

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚についた場合：

多量の水と石鹼で洗うこと。  
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

漏出した場合：

漏出物を回収すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。

### 3 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名(ダイアジノン)： O, O-ジエチル O-2-イソプロピル-6-メチルピリミジン-4-イル ホスホロチオエート

化学式又は構造式：  $C_{12}H_{21}N_2O_3PS$

成分及び含有量：

成分	含有量(%)	CAS番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
ダイアジノン	25	333-41-5	(5)-923	別表第9の343
エチレンジアミン	0.3	107-15-3	(2)-150	別表第9の83
ジエチレントリアミン	0.3	111-40-0	(2)-159	別表第9の225
鉱油	0.5~0.8	非公表	—	別表第9の168
その他	73.6~73.9	営業秘密につき非公開		

危険有害成分：

ダイアジノン(劇物)

### 4 応急処置

飲み込んだ場合：

吐かせないで、直ちに医師の手当てを受ける。  
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。  
速やかに医師の手当てを受ける。

吸入した場合：

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。  
直ちに医師の処置を受ける。  
多量の水、温水またはうがい薬を用いてうがいをし、医師の

## 安全データシート ダイアジノンS Lゾル

- 皮膚に付着した場合： 手当てを受ける。  
汚染された衣類を脱ぎ、多量の水及び石鹼でよく洗い落とす。  
速やかに医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合： 清浄な水で15分以上注意深く洗眼する。  
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、  
その後も洗浄を続ける。  
眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受ける。
- 最も重要な徴候及び症状： 有機リン化合物に共通の症状(瞳孔収縮、昏睡、痙攣、嘔吐、  
下痢、腹痛、流涎、等)を呈す。
- 応急処置をする者の保護： 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
- 医師に対する注意事項： 本製品は有機リン系のコリンエステラーゼ阻害物質を含む。  
解毒剤としては硫酸アトロピン、2-PAMが有効とされている。

### 5 火災時の処置

- 消火剤： 噴霧水・泡消火剤・粉末ドライケミカル・炭酸ガス(適宜、  
状況に応じて使用する)
- 使ってはならない消火剤： 冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用い  
てはならない。
- 火災時の特定危険有害性： 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそ  
れがある。
- 特定の消火方法： 消火作業は、可能な限り風上から行う。  
速やかに容器を安全な場所に移す。  
移動不可能な場合は、周辺または容器に散水し、冷却する。  
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼさないよう、  
適切な措置を行う。
- 消火を行う者の保護： 消火作業の際は、適切な保護具(呼吸保護具、化学用保護衣  
等)を着用する。

### 6 漏洩時の処置

- 人体に対する注意事項： 漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の  
立ち入りを禁止する。  
処理時には適切な保護具を着用し、吸入したり、手足、顔な  
どに付着しないようにする。
- 環境に対する注意事項： ダイアジノンは鳥類、魚類、ミツバチに対して毒性を有する。  
流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起さな  
いように注意する。
- 除去方法： 少量の場合 布、吸着マット、乾燥砂等に吸着させ、密閉容器に回収する。  
大量の場合 土嚢、土砂、布などで漏洩の拡大を防止し、出来るだけ多く密  
閉容器に回収する。  
汚染された箇所は、布などで拭き取る。

## 安全データシート ダイアジノンS Lゾル

### 7 取扱い及び保管上の注意

#### 取扱い

- 技術的対策： 保護衣、保護眼鏡、保護手袋など、適切な保護具を着用する。
- 安全取扱注意事項： 取り扱いは換気のよいところで行う。  
炎、火花、もしくは高温体との接触または過熱を避ける。  
取扱い後には手などをよく洗う。  
指定された場所以外では、飲食、喫煙しないこと。  
皮膚、粘膜または着衣に触れたり、眼に入らないようにする。  
発散したミスト/スプレーを吸い込まないようにする。  
休憩場所には、手洗い、洗眼などの設備をもうけ、取扱い後には手などをよく洗う。  
食品や飼料への混入を避けること。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの乱暴な取り扱いをしてはならない。  
みだりにミスト/スプレーが発生しないように取り扱う。

#### 保管

- 適切な保管条件： 直射日光を避ける。  
鍵のかかるなるべく低温の乾燥した場所に、密封して保管する。  
食品、飼料と一緒に保管しないこと。  
高温体、裸火のそばに保管しないこと。
- 安全な容器包装材料： 基本的には製品容器を使用する。

### 8 暴露防止及び保護処置

- 設備対策： 局所排気装置の設置または全体換気を適切に行う。  
取扱場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

- 管理濃度：
- |            |          |
|------------|----------|
| ダイアジノン     | 設定されていない |
| エチレンジアミン   | 設定されていない |
| ジエチレントリアミン | 設定されていない |
| 鉱油         | 設定されていない |

#### 許容濃度

- 日本産業衛生学会勧告：
- |              |                                    |
|--------------|------------------------------------|
| ダイアジノン       | 0.1 mg/m <sup>3</sup>              |
| エチレンジアミン     | 10 ppm(25 mg/m <sup>3</sup> ) (経皮) |
| ジエチレントリアミン   | 設定されていない                           |
| 鉱油(鉱油ミストとして) | 3 mg/m <sup>3</sup>                |
- ACGIH勧告：
- |              |  |
|--------------|--|
| ダイアジノン       | TLV-TWA 0.01 mg/m <sup>3</sup> (経皮)        |
| エチレンジアミン     | TLV-TWA 10 ppm(25 mg/m <sup>3</sup> ) (経皮) |
| ジエチレントリアミン   | TLV-TWA 1 ppm (経皮)                         |
| 鉱油(鉱油ミストとして) | TLV-TWA 5 mg/m <sup>3</sup>                |

#### 保護具

- 呼吸器用の保護具： 有機ガス用防毒マスク

## 安全データシート ダイアジノン S L ゴル

手の保護具： ゴム手袋  
 皮膚及び身体の保護具：保護衣(長袖)、保護眼鏡

### 9 物理的及び化学的性質

#### 物理的状态

形状： 粥状懸濁液体  
 色： 類白色  
 臭い： 甘い芳香族臭

#### 物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

融点： 測定不能(ダイアジノン)  
 沸点： 大気圧条件化では沸騰せず、215℃以上で分解(ダイアジノン)  
 引火点： データなし  
 爆発特性： データなし  
 蒸気圧：  $1.9 \times 10^{-2}$  Pa (20℃)、 $3.7 \times 10^{-2}$  Pa (25℃)(ダイアジノン)  
 密度： 約1.02 g/cm<sup>3</sup> (20℃)  
 溶解性： 溶剤に不溶。水に懸濁する。  
 オクタノール/水分配係数:  $\log P_{ow} = 3.42$  (ダイアジノン)

### 10 安定性及び反応性

安定性： 通常の取り扱い条件においては安定である。  
 反応性： 酸性下では分解が速い。  
 アルカリ条件下では徐々に分解する。  
 酸化されやすい。  
 避けるべき条件： 酸、アルカリとの接触を避ける。  
 酸化剤との接触を避ける。  
 危険有害な分解生成物： 酸化物(ダイアゾクソン)

### 11 有害性情報

※ 以下、急性吸入毒性以外の急性毒性から皮膚感作性までの情報は、鉱油成分を含む本製品(混合物)を用いて実施した試験結果に基づく情報  
 急性吸入毒性の情報については、鉱油成分を添加済みのダイアジノン原体を用いて実施した試験結果に基づく情報

急性毒性：経口      ラット LD<sub>50</sub>      雌雄, >5000 mg/kg      (区分外)  
                   経皮      ラット LD<sub>50</sub>      雌雄, >2000 mg/kg      (区分外)  
 本製品2000 mg/kg経皮投与による死亡例はなく、毒性の臨床症状も認められなかったことから、ヒトの健康に対して急性的な懸念が示唆されないため、区分外とした。  
 吸入              ダイアジノン      ラット LC<sub>50</sub> 3.1 mg/L (ミスト)      (区分4)  
 上記以外で、本製品中に1.0%以上含まれる成分について、利用可能な吸入暴露データがないため、未知成分補正の加算式

安全データシート ダイアジノンS Lゾル

より求めたATEmix値に基づき、区分4とした。

皮膚腐食性・刺激性：ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、分類基準を満たす刺激性変化が認められなかったため、区分外とした。

眼の重篤な損傷・刺激性：ウサギを用いた眼刺激性試験において、分類基準を満たす刺激性変化が認められなかったため、区分外とした。

呼吸器感受性：いずれの成分についても情報なし (分類できない)

皮膚感受性：モルモットを用いた皮膚感受性試験(GPM法)において、皮内投与量5%で、85%の供試動物に皮膚反応が認められたため、区分1Bとした。

※ 以下のダイアジノンの情報は、吸引力呼吸器有害性を除き、鉱油成分を添加済みのダイアジノン原体を用いて実施した試験結果に基づく情報

変異原性：ダイアジノン 復帰変異、染色体異常及び小核誘発性、陰性； (区分外)  
 エチレンジアミン 経世代変異原性、生殖細胞in vivo変異原性、  
 体細胞in vivo変異原性、陰性 (区分外)  
 ジエチレントリアミン 経世代変異原性、生殖細胞in vivo変異原性、  
 体細胞in vivo変異原性、陰性 (区分外)

製品中の対象成分の分類がいずれも区分外であるため、区分外とした。

発がん性：ダイアジノン 陰性(ラット、マウス) (区分外)  
 エチレンジアミン A C G I H, A 4 (区分外)  
 ジエチレントリアミン 既存分類なし (分類できない)

本製品には分類できない成分が含まれるが、カプセル膜の構成成分であることから、本製品中にはカットオフ値を超えて残存しないため、区分外とした。

生殖毒性：ダイアジノン 催奇形性 陰性(ラット、ウサギ)、繁殖 影響なし(ラット) (区分外)  
 エチレンジアミン データ不足 (分類できない)  
 ジエチレントリアミン ラットを用いた生殖/発生毒性試験において、親動物に他の毒性作用がみられない条件下で、生殖/発生への影響がみられた。(区分1B)

本製品には分類できない成分及び区分1Bの成分が含まれるが、カプセル膜の構成成分であることから、本製品中にはカットオフ値を超えて残存しないため、区分外とした。

特定標的臓器毒性(単回暴露)：  
 本製品のラットに対する単回経口投与試験において、非致死用量を投与した動物に中毒症状が観察されなかったため、区分外とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)：  
 本製品には、ダイアジノン(区分2(腎臓、神経系、肝臓、精巣))が区分2のカットオフ値を超えて含まれるが、当該成分はマイクロカプセルに内包され、カプセル外には区分2のカットオフ値を超える濃度では存在しない。  
 本製品には、エチレンジアミン(区分2(肝臓、腎臓、視覚器))が含まれるが、区分2のカットオフ値を超えない。  
 本製品には、ジエチレントリアミン(分類できない)が含まれるが、いずれの

安全データシート ダイアジノンS Lゾル

区分のカットオフ値も超えない。

以上より、本製品の分類は区分外とした。

吸引性呼吸器有害性： 情報なし (分類できない)

## 1 2 環境影響情報

生態毒性(水生生物)：

コイ	急性LC <sub>50</sub>	> 1000 mg/L(96時間)
オオミジンコ	急性遊泳阻害EC <sub>50</sub>	1.53 μg/L(48時間)
緑藻	生長阻害E <sub>r</sub> C <sub>50</sub>	65.4 mg/L(72時間)

(ダイアジノン原体の情報)

オオミジンコ	急性遊泳阻害EC <sub>50</sub>	243 ng/L(48時間)
	慢性遊泳阻害NOEC	≥200 ng/L(21日間)
	繁殖EC <sub>50</sub>	191 ng/L(累積産仔数)
	繁殖NOEC	50 ng/L(累積産仔数)

水生環境急性有害性： 甲殻類に対する急性影響に基づき、区分1とした。

残留性/分解性： 酸化分解または加水分解により速やかに分解

生物濃縮性： B C F = 65~78(ダイアジノン)

水生環境慢性有害性： 慢性区分1の成分ダイアジノンを25%以上含むため、区分1とした。

## 1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物： 毒物及び劇物の廃棄方法に関する基準に従うこと。  
廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。

汚染容器、包装： 下水道、いかなる水域、土地にも投棄してはならない。  
容器・包装等を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。  
使用した器具を洗浄する際、環境や水の汚染を避けること。  
空容器を再利用してはならない。

## 1 4 輸送上の注意

国際規制	陸上輸送：	ADR/RID	クラス9(M6)	PGIII
	海上輸送：	IMDGコード	クラス9	PGIII
	航空輸送：	ICAO/IATA	クラス9	PGIII

国連分類： クラス9(環境有害性物質)

国連番号： 3082

品名(国連輸送名)： ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N. O. S.

追加情報： MARINE POLLUTANT

国内規制 陸上輸送： 非該当

海上輸送： 船舶安全法の規定に従った容器・包装、表示、積載・輸送方法により輸送する。



## 安全データシート ダイアジノンS Lゾル

航空輸送： 航空法の規定に従った容器・包装、表示、積載・輸送方法により輸送する。

特定の安全対策及び条件： 容器が破損しないように、混載するときは注意すること。  
取り扱い及び保管上の注意事項に留意する。

### 1.5 適用法令

農薬取締法	適用(農林水産省登録 第17620号)
毒物及び劇物取締法	適用(劇物指定除外)
労働安全衛生法	以下のものは第57条の2(通知対象物質)に該当 名称 番号 含有率 ダイアジノン 343 25% エチレンジアミン 83 0.3% ジエチレントリアミン 225 0.3% 鉱油 168 0.5~0.8%
化学物質管理促進法	(2009年10月1日に施行された改正法に伴う記載) 以下のものは指定化学物質に該当 名称 種別 番号 含有率 ダイアジノン 第一種 248 25% エチレンジアミン 第一種 59 0.3%
船舶安全法	危険物船舶運送及び貯蔵規則 第3条 有害性物質
航空法	航空法施行規則 第194条 その他の有害物件
化審法	第二種監視化学物質(No. 437)、第三種監視化学物質(No. 29)
環境基本法	水質要監視項目(ダイアジノン、指針値 0.005 mg/L)

### 1.6 その他の情報

記載内容の問合せ先：	アグロ事業部 03-6731-5325
改訂の記録：	作成 1993年04月01日 改訂 2000年12月11日 (連絡先部署変更) 改訂 2001年07月12日 (組織名変更) 改訂 2005年01月06日 (JIS 2004対応) 改訂 2009年10月01日 (組織名変更、改正PRTR法対応) 改訂 2013年04月11日 (労安法(GHS改訂4版)対応) 改訂 2014年08月18日 (本社移転に伴う住所変更) 最終改訂 2016年06月01日 (労安法改正による通知物質の 情報追加及び見直し)

引用文献： 国際連合 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)(改訂4版)  
THE PESTICIDE MANUAL(第15版)





日本化薬株式会社  
作成年月日：1993年 4月 1日  
改訂年月日：2016年06月01日

## 安全データシート ダイアジノンSLゾル

安全衛生情報センター モデルSDS「エチレンジアミン」  
安全衛生情報センター モデルSDS「ジエチレントリアミン」  
農薬抄録 ダイアジノン

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。すべての化学製品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。また、記載事項は通常の手続きを対象にしたものですので、特別な取り扱いをする場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施のうえ、お取り扱い願います。